

ITによる業務効率化が

生み出す価値

バリュー

アトラス総合事務所（東京都渋谷区）は、様々な士業の有資格者を内部に抱える総合型の会計事務所です。同事務所は早くからITを積極的に導入し、業務の効率化に注力していることで知られています。弥生PAP会員のアトラス総合事務所では、どのように弥生を活用しているのでしょうか。井上修代表、吉田斉氏、今井英仁氏の3名にお話を伺いました。

Photo : norico

会計事務所はサービス業

まず、アトラス総合事務所の沿革をお聞かせください。

井上 私が独立して井上公認会計士事務所を開設したのは平成2年のことです。その後、司法書士や社労士を採用

し、平成17年にアトラス総合事務所として再びスタートしました。税理士法人、社労士法人、司法書士法人を包括した総合事務所ですね。

なぜ組織を総合事務所に変更したのでしょうか？

井上 それまでは私と数人の事務所だったのですが、業務の中で司法書士や社労士の方に頻りに連絡をしていました。それにかなり時間を奪われていたもので、全部集めて事務所の業務を効率化しようと思ったんです。

もちろん、それはお客様にワンストップでサービスを提供できることにもつながりますよね。私たち自身とお客様の双方が手間を省ける事務所になりたいと考えたわけです。

総合事務所としてスタートした際は、どのくらいの規模だったのでしょうか？

井上 当時はまだ10名以下で、お客様の数は300ほどでした。現在は全体で40名を超えるスタッフがおり、お客様の数も1000を超えています。

（P4に続く）



井上修
アトラス総合事務所



吉田斉
アトラス総合事務所

今井英仁
アトラス総合事務所



顧問先数1000件超の急成長！その秘訣、教えてください。



経営理念があればお聞かせください。
井上 私たちは会計事務所をサービス業だと考えています。ですから当然まず「お客様第一」という理念を持っています。

さらに、プロとして専門的なサービスを当たり前に提供できるような組織でありたいと思っています。

お客様への支援にはどのように取り組んでいるのでしょうか。

井上 これからの課題はやはりクラウド化だと捉えています。この領域の進歩は目覚ましいです。少し油断するとすぐに追いつけなくなってしまうスピード感があると思います。クラウドを活用することで、お客様の業務と私たちの業務の双方をいかに効率化させるのが課題なのです。

しかし、ただ最新の技術を知っているだけではいいわけではありません。新しい技術のうちどれが使えるものなのか、既存の技術と組み合わせると何がお客様のメリットになるのかを理解することがとても重要です。そういったITコンサルのようなことも出来る総合事務所を目指しています。



「クラウドの活用が
これからの課題ですよ」
——井上

「弥生のソフトは
導入が簡単です」
——吉田

「自動取込で業務を
一気に効率化できるのです」
——今井

業務の効率化を進める理由

アトラス総合事務所が弥生を導入した経緯を教えてください。

井上 私は独立した当初に弥生を導入しました。今から28年ほど前、パソコンのOSはまだMS-DOSの時代です。当時の主流は専用機で、いわゆるパソコン会計の初期にあたります。

その後、他の企業が提供するソフトも一通りは試してはみましたが、やはり弥生のコストパフォーマンスが一番良かったんですね。さらに、使いやすいのが弥生の魅力です。ソフトの進化とともにどんどん使いやすくなっていったと感じています。

お客様にも早い段階から弥生を推薦されたのでしょうか？

井上 そうですね。私は独立したとき

務や労務、法務の手続きなども弥生で包括して対応できるようになってほしいですね。

最後に今後の展望を教えてください。

井上 サービスの質を落とさず、お客様もスタッフも幸せになれるような環境づくりに努めたいですね。

もちろん、成長のスピードを緩めるというわけではありません。ただ、何のために仕事をしているかと言えば、スタッフとその家族が幸せになるためだと私は思います。

今は高齢化の時代ですから、75歳になっても例えば週3日くらい働いて、社会と関われる幸せを提供できたいですね。

給与も業界の水準以上に出したいです。

すし、夢のような話だと思われるかもしれませんが、良い労働環境で楽しく働いてもらいたいです。

そうすれば、結果としていいお客様やスタッフが自然に集まってくると思っています。

ありがとうございます。



には既に自計化について考えていました。自分で記帳代行を行っているはおお客様の数はどうしても頭打ちになるからです。

当時50万円くらいした「大番頭」(後に弥生と統合)のある企業に導入してもらったのが自計化のスタートです。

その顧問先は今でもお客様として続いています。弥生をお客様に導入しやすいポイントとしては、ファイルがひとつでわかりやすいという点も大きいと感じます。渋谷という場所柄、IT関連のお客様が多くいるのですが、早くから「メールでやろうよ」と声を掛けてもらい、弥生のバックアップデータをメールに添付してやりとりしていたんです。

それが今から20年以上前ですから、私たちは会計事務所の中でもITへの取り組みは早かったと思います。業務の効率化を重視する私の考えからすれば、データやり取りのプロセスを大幅に省略できる電子メールは本当に便利なものだと衝撃でした。

吉田さん、今井さんは弥生を使って

どのくらいですか？

吉田 私はアトラスに入社して10年ですが、この業界には20年ほどいます。

以前の事務所では始めは専用機を使っていたのですが、平成10年あたりから「大番頭」を使い始めたことが私と弥生の出会いです。

そこから弥生を使っていますが、使いやすいし、インストールが簡単で導入しやすいのが他のソフトとは違うところだと思っていますね。

今井 私もこの業界には20年ほどいますが、弥生を使ったのはアトラスに入社してからのこの10年です。以前は専用機や他社のソフトを使っていたのですが、弥生を利用してみると「自由度が高い」と感じますね。

入力しやすい、入力した後も変更がしやすいという点で、非常に使いやすいツールだと実感しています。

現在、弥生のソフトを使ってどのように業務を効率化しているのか教えてください。

今井 例えば、お客様がインターネットバンキングを利用していても関わらず、通帳やクレジットカードのデータを紙でもらって入力し直すのは、全く意味がない業務ですよ。自動取込で業務を一気に効率化できるので非常にメリットを感じています。

学習機能もありますので、使い込ん

ATLAS General Office

でいけば毎月どんどん適正な仕訳が出来るようになります。レシートや領収書もデジタル化して取り込めるので、業務の効率化に弥生は非常に貢献していると感じますね。

効率化によって、注力できるようになった業務はありますか？

井上 お客様との相談指導業務に割ける時間はこれまで以上に多く取れるようになりました。数字の見方を教えたらいいのかを自分たちの経験や知見からお話するのです。そこが本来私たちに求められる役割だと思います。経営者に話を聞いてもらうためには私たちが成長して結果を残すことが必要です。そうでなければ、説得力がありませんよ。

今井 日本政策金融公庫と協力して「1日公庫」という相談会を定期的に開催したりもしています。その場で融資の可否がわかる相談会ですね。

社員の幸せを実現する

今後の弥生に期待することは何かありますか？

井上 私たちのような総合事務所が行っている業務はどんどんテクノロジーが代替していくようになる予測しています。ですから、会計ソフトとしての技術的な向上はもちろんです。税

